

令和2年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492601495	事業の開始年月日	令和1年9月1日
		指定年月日	令和1年9月1日
法人名	株式会社日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語さがみ中央		
所在地	( 252-0211 ) 神奈川県相模原市中央区宮下本町3-1-20		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年12月26日	評価結果 市町村受理日	令和3年6月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・年初からのコロナ渦のなか、ボランティアの定期的な協力や、外出によるレクリエーションが困難な状況にあったものの、施設内での日々のレクリエーション、季節の行事、日々の体操などを充実させ、利用者の笑顔を絶えさぬよう、職員全員で対応しております。コロナ収束後の施設運営の新たな方向性が、検討、実施出来たと思われま。新規利用者の方々におかれても、個々の、ニーズを検討し、いち早く、充実した生活を送れるよう、対応しております。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年2月22日	評価機関 評価決定日	令和3年5月24日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、京王相模原線「多摩境」駅から徒歩12分、またはJR相模線「橋本」駅からバスで約10分、「矢掛台」バス停下車徒歩3分の住宅地にあるレンガ風外壁の2階建ての建物です。昨年度から運営法人が変わっています。

<優れている点>

「地域社会に貢献する」が事業所理念の一つで、例年は多種多彩なボランティアの来訪や自治会のイベントへの参加などを活発に行っています。今年度は地域のイベント「ウォーキングラリー」の拠点として協力をしています。コロナ禍で利用者の外出が制限される中、屋上を利用して日光浴や洗濯物干しなどで外気に触れることができます。正月には屋上で初詣をして、職員の手作り「おみくじ」を引き楽しんでます。利用者一人ひとりの居室にトイレがあり、気兼ねなく使用することができます。医療面では、訪問医以外の外来受診をする際に、家族の付き添いが不可能な場合が多く、職員が無償で対応をしています。

<工夫点>

コロナ禍で、外出を控え、外部からの訪問も制限される中で、職員が一丸となって事業所内でのレクリエーションや、季節ごとの行事の書初め、豆まき、ひな祭り、母の日、父の日、七夕、敬老の日、ハロウィン、クリスマス、誕生会など、楽しい企画を提案し工夫を凝らしています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語さがみ中央
ユニット名	ひつじ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			○
		4, ほとんどない	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			○
		4, 全くいない	
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない	
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を掲示し、管理者・職員が理念を把握し、支援できるよう努めている。	「人を大切にする、誠実に実行する、変化を受け入れる、卓越性を追求する、地域社会に貢献する」という理念を各フロアと事務室に掲示し、会議の前に唱和しています。職員は、利用者の状態や業務の変化に対応し、新たな介護力を身につけていくよう努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	例年参加している地域行事には、コロナ禍のなか、本年に限り出来ていないが、コロナ後には復活させる。	自治会に加入し、地域の納涼祭や文化祭に参加しています。市内の高校の福祉課の実習生を受け入れています。通常は、敬老会やクリスマス会などの事業所行事に地域の人も参加しています。また、毎週、ボランティアの来訪があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センター主催の地域住民による「ウォーキングラリー」の対象拠点として参加した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者、職員間による、運営推進会議を開催したが、コロナ後には行政、地域との連携を復活させる。	コロナ禍のため、利用者と職員で運営推進会議を開催し、行事や利用者への対応について話し合っています。コロナ禍前は、行政や地域が提案したイベントに利用者とともに参加したり、事業所玄関施錠を課題として上げたり、外部評価についての報告もしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政生活支援担当者と連絡を取りあっており、高齢生保受給者の入居、入居相談を受けている	市の生活支援課と連絡を取り合い、生活保護受給者の入居相談などで協力関係を築いています。地域包括支援センターの企画・イベントに参加しています。介護認定更新時には市の職員へ事業所での介護サービスの取組みを伝えていきます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は原則禁止しており、研修会をつうじ、職員全体の理解に努めている。	「身体拘束防止マニュアル」を作成し、2ヶ月に一度、身体拘束廃止委員会を開催しています。研修は年に2回実施し、質問形式で職員の理解度を確認しています。フロアは施錠していますが、玄関は夜間のみ施錠です。運営推進会議で課題として話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待について、職員間で常に意識し、発生しない様努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に後見人制度を利用されている方が複数おられるので職員は周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に事業内容を説明している。入居者のレベル低下等による家族の不安など日常的な話を聞いている。必要な時は家族と職員との話し合いの場を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	出来る限り、電話等で、状況説明を行っており、コロナ後には家族会を復活させる。	コロナ禍により、年に1回開催の家族会は見合わせていますが、「はな通信」を年に2回発行し、利用者一人ひとりの写真を載せ、事業所での様子を伝えています。面会が制限されているので家族からの要望などは電話で受け、利用者の現状を伝えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議で自由に発言出来る機会を設けている。又、業務中であっても、意見提案を聞く時間を設けている。	定期的にフロア会議を開催して、職員の意見や提案を聞き、利用者へのこまやかなサービスや業務改善に反映させています。また、日常の業務の中で職員からの意見を随時聞き取り、サービスの改善につなげています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務時間、曜日等職員の希望を反映しつつ負担が片寄らないシフト調整をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の経験や能力に応じてスキルアップのための研修や講習を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループ法人での研修、会議等に参加し、スキルアップを図っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	生活環境の変化から来る不安感を少しでも軽減できるよう、入居者様の話を傾聴し、信頼関係路築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に、ご家族様の要望をお聞きし、入居後もご家族様の来所時等に要望等をお聞きし、支援内容に反映できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の事前のアセスメントにより、支援計画を作成し、入居時より、必要な支援を行えるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の趣味や得意分野を生活の場に活かし共に笑顔で過ごせる環境作りを心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と連絡をとりながら、利用者の生活を支える努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族が、利用者との面会が可能となった際には、限られた時間であっても、その機会をとっており、コロナ後には利用者とともに、積極的に、関係を復活させる	家族や友人との面会、地域で有名な公園へ花見に行くなどの支援をしていますが、コロナ禍で馴染みの場所などへの外出は控えています。事業所内のレクリエーションで、個々の利用者の趣味が継続できるように支援しています。□	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の相性を見守りながら孤立することのないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後も、ご家族が手作り品を持参されたりボランティアとして入居者と関わって下さる方がいるので関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとり違うので入居者の希望に沿うように努めている。	本人との会話や家族と相談、生活履歴の検討などから利用者の思いや意向を把握するよう努めています。日常の表情から思いを把握し、フロア会議で本人の現状を検討して、会議録や日々の申し送り事項記録で情報共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の生活歴を把握し入居後も大きく変化しないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの過ごし方は大きく異なっているが各々の状態を見極め心身の変化についても話し合いや報告を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリング、カンファレンス、家族等との担当者会議を行い、介護計画を作成している。	計画作成担当者がモニタリングを行い、フロア会議において職員全員でカンファレンスを行ってアセスメントし、家族や本人の意向を確認の上、ケアプランを作成しています。年に2回見直しをし、面談や電話で家族の意見を聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、日中と夜間の様子をケース記録に記載し仕事に入る前に読み、引き継ぎを行い新しい変化にも共通認識を持って支援に当たっている。講演会、勉強会にも積極的に参加し、知識を深めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	歯科往診、訪問マッサージ、連携医療機関の訪問診療の受診と月1回の美容師を受けいれているが、コロナ後にはボランティアの受け入れも復活させたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ後には、自治会、ボランティア、地域包括支援センターの協力で豊かな毎日が送れるように支援していく。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回のホーム提携医の往診あり。必要に応じて掛かり付け医に受診している。訪問歯科もある。	入居時に家族、本人に医療対応の説明をし、後に決定してもらっています。今は全員が提携医の訪問診療で、月2回、内科および歯科医が来訪しています。年1回の健康診断と月2回の診療のデータは管理者と職員で情報共有し、ケアプラン作成時の基本データとしています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場内に看護師がおり、また訪問診療の看護師と共に、入居者の些細な変化も報告相談し適切な対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携して病状の安定のための指示などを受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人、ご家族の希望に添えるよう、訪問診療医、職場内看護師と連携し、終末期対応の方針を決めている。職員全体が情報を共有し、適切な対応が出来るよう努めている。	入居時に事業所としての対応を説明した後、確認書を交わしています。家族の思いに変化がある場合は確認書の差し替えもします。重度化に向けたマニュアルを整備して、フロア会議で内部研修をしています。看取りの経験は直近ではありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防署開催の救命講習会等に参加し心肺蘇生法等を研修し、AEDも設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に消防署員立ち合いのもと、災害時の避難訓練を行っている。水や備品を用意点検している。地域のボランティアの方々、自治会の方々との協力体制を築いている。	年2回、昼夜の別で内部避難訓練を行っています。実施後は職員間で反省会を開き、改善点を討議し次回訓練に活かしています。避難時に自治会から支援を受ける体制も構築しています。備蓄品は事業所独自に購入管理しています。消防署の訓練参加は5年に1度です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	居室の清掃や衣類の整理等で入室する時は、ご本人がフロアに出ている時でも許可を得てから入室する。オムツ、パット交換時はドアを閉めて行う。名前は名字で呼んでいる。	入居者を「～さん」付けで声掛けしています。身体拘束廃止委員会で討議、検討した内容はフロア会議と日々の申し送り書で検証し、実行しています。スタッフ間での注意喚起や管理者による指導も定期的に行っています。日々の介護での気付きに留意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	散歩を兼ねたお使いに一緒に行き、おやつを選んだり個々には、ご自分の好きな物を買われる。食事、入浴、散歩等も出来るだけ入居者ご自身の意向に沿うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の嗜好趣味に合わせゲーム、歌、テレビ等の娯楽と一緒に楽しんでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	美容師の来所により整髪を行っている。洋服は好みを選んで頂く。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の配膳、片付けは希望される入居者が手伝って下さる。	食材は業者からの仕入れで、湯煎解凍して提供しています。通年での行事食、祝い膳なども用意され楽しい食事時間となっています。ムース食の人には食事介助を行っています。利用者も日常的に配膳や片付けを手伝っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分の摂取量を記録している。食事は状態に合わせて、トロミ剤等も利用し、十分に摂取できない方には栄養剤を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	就寝時、起床時、毎食後の口腔ケアの声掛け、誘導、見守り、義歯の消毒洗浄施行。訪問歯科による管理指導を受け、口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録をつけ個々の排泄パターンを把握し、個々に合った支援をしている。	適正な水分摂取量の把握と1日の排泄リズムを個別にデータ化しています。無理なくトイレタイムが迎えられるように職員全員で見守っています。レクリエーション体操などの後の声掛け誘導は効果的です。入居時に紙パンツ使用の人が布パンツに変更した改善例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝、牛乳を提供している。屋上、戸外の散歩をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	行事が重ならない限り、毎日入浴できるが、入浴を好まれない方への対応も職員間で連携し、工夫している。	入浴は週2回ですが、希望すれば何回でも入浴することができます。季節の菖蒲湯や柚子湯も楽しめます。入浴を嫌う人には声掛けのタイミングを図ったり、居室で清拭などの対応もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	各入居者のペースに合わせ声掛け、誘導、見守りにより就寝して頂き夜間は2時間毎の巡回、室温調整寝具の清潔の保持等、安眠出来るよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様一人一人の薬を把握し、用法や副作用について理解できるようにし、個人のケース記録等により、症状の変化に気づける様になっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者個々の楽しみ、やりがいを把握し、一律的な支援を行わず、一人ひとりにあった対応をしている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ後には散歩、買い物同行、外食、季節のお花見等外出し、ホームでの外出行事の際には、家族に同行の依頼をしたい。	コロナ禍以前は数人で散歩に出る事を普通に行っていましたが、現在は自粛中です。利用者は屋上での日光浴を楽しみながら体操もしています。例年は初詣から始まり、梅、桜の花見、鯉のぼり見学、納涼祭、敬老会、モミジ狩と盛りだくさんのイベントがあります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一部の入居者は本人が少額のお金を管理している、コロナ後には職員やボランティアさん、家族の付き添いのもと、お店で嗜好品を選択したり支払いを自らし、付き添い人は見守り支援していく。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所持し使用している方もおられる。場合によってはホームの電話を利用している。自ら手紙を書ける方には書いて頂き宛名の代筆や投函の協力をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フローには大きな窓があり、自然光を充分に取り入れている。テーブルには花を生け、壁には外出時の写真や季節の作品を展示している。穏やかな日には屋上で日光浴をしたり、お茶を楽しんでいる。	リビングの静かな空間で居眠りをしたり、テレビを見たり、レクリエーションの体操、輪投げ、パズルなどで利用者は穏やかに1日を過ごしています。廊下やトイレに手すりを設置し、転倒を防ぎながら歩行ができます。屋上で日光浴も五感に良い刺激となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フローにはダイニングテーブルの他ソファ、大型テレビ、ラジオ、図書等を設置しており、自由に利用していただくで頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	慣れ親しんだ家具や、お人形、家電製品等を持ち込んで頂く。壁にはコルクボードを設置しており、写真や飾り等、自由にレイアウトして楽しんで頂く。各居室にトイレが設置してある。	エアコン、照明、ベッド、トイレは各居室に備え付けです。居室担当制が敷かれており、掃除は職員が対応しています。馴染みの持参家具などの配置は利用者の意思を尊重していますが、転倒事故を防ぐ目的において、居室担当者がレイアウトの支援もしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フローはバリアフリーになっており、廊下、浴室、各居室トイレには手すりが設置されている。		

事業所名	花物語さがみ中央
ユニット名	はと

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			○
		4, ほとんどない	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			○
		4, 全くいない	
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない	
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を掲示し、管理者・職員が理念を把握し、支援できるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	例年参加している地域行事には、コロナ渦のなか、本年に限り出来ていないが、コロナ後には復活させる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センター主催の地域住民による「ウォーキングラリー」の対象拠点として参加した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者、職員間による、運営推進会議を開催したが、コロナ後には行政、地域との連携を復活させる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	行政生活支援担当者と連絡を取りあっており、高齢生保受給者の入居、入居相談を受けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は原則禁止しており、研修会をつうじ、職員全体の理解に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待について、職員間で常に意識し、発生しない様努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に後見人制度を利用されている方が複数おられるので職員は周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に事業内容を説明している。入居者のレベル低下等による家族の不安など日常的な話を聞いている。必要な時は家族と職員との話し合いの場を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	出来る限り、電話等で、状況説明を行っており、コロナ後には家族会を復活させる。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議で自由に発言出来る機会を設けている。又、業務中であっても、意見提案を聞く時間を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務時間、曜日等職員の希望を反映しつつ負担が片寄らないシフト調整をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の経験や能力に応じてスキルアップのための研修や講習を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループ法人での研修、会議等に参加し、スキルアップを図っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	生活環境の変化から来る不安感を少しでも軽減できるよう、入居者様の話を傾聴し、信頼関係路築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に、ご家族様の要望をお聞きし、入居後もご家族様の来所時等に要望等をお聞きし、支援内容に反映できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の事前のアセスメントにより、支援計画を作成し、入居時より、必要な支援を行えるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の趣味や得意分野を生活の場に活かし共に笑顔で過ごせる環境作りを心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と連絡をとりながら、利用者の生活を支える努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族が、利用者との面会が可能となった際には、限られた時間であっても、その機会をとっており、コロナ後には利用者とともに、積極的に、関係を復活させる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の相性を見守りながら孤立することのないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後も、ご家族が手作り品を持参されたりボランティアとして入居者と関わって下さる方がいるので関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとり違うので入居者の希望に沿うように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の生活歴を把握し入居後も大きく変化しないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの過ごし方は大きく異なっているが各々の状態を見極め心身の変化についても話し合いや報告を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリング、カンファレンス、家族等との担当者会議を行い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、日中と夜間の様子をケース記録に記載し仕事に入る前に読み、引き継ぎを行い新しい変化にも共通認識を持って支援に当たっている。講演会、勉強会にも積極的に参加し、知識を深めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	歯科往診、訪問マッサージ、連携医療機関の訪問診療の受診と月1回の美容師を受けいれているが、コロナ後にはボランティアの受け入れも復活させたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ後には、自治会、ボランティア、地域包括支援センターの協力で豊かな毎日が送れるように支援していく。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回のホーム提携医の往診あり。必要に応じて掛かり付け医に受診している。訪問歯科もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場内に看護師がおり、また訪問診療の看護師と共に、入居者の些細な変化も報告相談し適切な対応が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携して病状の安定のための指示などを受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人、ご家族の希望に添えるよう、訪問診療医、職場内看護師と連携し、終末期対応の方針を決めている。職員全体が情報を共有し、適切な対応が出来るよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防署開催の救命講習会等に参加し心肺蘇生法等を研修し、AEDも設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に消防署員立ち合いのもと、災害時の避難訓練を行っている。水や備品を用意点検している。地域のボランティアの方々、自治会の方々との協力体制を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	居室の清掃や衣類の整理等で入室する時は、ご本人がフローアールに出ている時でも許可を得てから入室する。オムツ、パット交換時はドアを閉めて行う。名前は名字で呼んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	散歩を兼ねたお使いに一緒に行き、おやつを選んだり個々には、ご自分の好きな物を買われる。食事、入浴、散歩等も出来るだけ入居者ご自身の意向に沿うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の嗜好趣味に合わせゲーム、歌、テレビ等の娯楽を一緒に楽しんでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	美容師の来所により整髪を行っている。洋服は好みを選んで頂く。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の配膳、片付けは希望される入居者が手伝って下さる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分の摂取量を記録している。食事は状態に合わせて、トロミ剤等も利用し、十分に摂取できない方には栄養剤を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	就寝時、起床時、毎食後の口腔ケアの声掛け、誘導、見守り、義歯の消毒洗浄施行。訪問歯科による管理指導を受け、口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録をつけ個々の排泄パターンを把握し、個々に合った支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝、牛乳を提供している。屋上、戸外の散歩をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	行事が重ならない限り、毎日入浴できるが、入浴を好まれない方への対応も職員間で連携し、工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	各入居者のペースに合わせ声掛け、誘導、見守りにより就寝して頂き夜間は2時間毎の巡回、室温温度調整寝具の清潔の保持等、安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様一人一人の薬を把握し、用法や副作用について理解できるようにし、個人のケース記録等により、症状の変化に気づける様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者個々の楽しみ、やりがいを把握し、一律的な支援を行わず、一人ひとりにあった対応をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ後には散歩、買い物同行、外食、季節のお花見等外出し、ホームでの外出行事の際には、家族に同行の依頼をしたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一部の入居者は本人が少額のお金を管理している、コロナ後には職員やボランティアさん、家族の付き添いのもと、お店で嗜好品を選択したり支払いを自らし、付き添い人は見守り支援していく。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所持し使用している方もおられる。場合によってはホームの電話を利用している。自ら手紙を書ける方には書いて頂き宛名の代筆や投函の協力をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フローアーには大きな窓があり、自然光を充分に取り入れている。テーブルには花を生け、壁には外出時の写真や季節の作品を展示している。穏やかな日には屋上で日光浴をしたり、お茶を楽しんでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フローアーにはダイニングテーブルの他ソファー、大型テレビ、ラジオ、図書等を設置しており、自由に利用していただくので頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	慣れ親しんだ家具や、お人形、家電製品等を持ち込んで頂く。壁にはコルクボードを設置しており、写真や飾り等、自由にレイアウトして楽しんで頂く。各居室にトイレが設置してある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フローアーはバリアフリーになっており、廊下、浴室、各居室トイレには手すりが設置されている。		

2020年度

事業所名 花物語さがみ中央

作成日：令和3年6月10日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		家族との面会を規制しているため、利用者のストレスも多くなっているかと思われる。	面会の機会を設ける。	リモートによる、面会の設定。	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月